



参加企業にAIを活用したマッチングなど新たな方式を説明した



アンケート記入も取り入れた「就職意識醸成セミナー」

AI活用してマッチング

新たな方式「高校生インターンシップ事業」

セミナー分散、企業訪問を短縮

高校生と身近にある企業をマッチング、地域経済の担い手として活躍をしてもらうことを目的とした山形商工会議所主催の「高校生インターンシップ事業」の就業意識醸成セミナーと事業参加企業への説明会が6月7日から16日にかけて、山形市内のホテルで行われた。

同事業は従来「ジュニアインターンシップ事業」の名称で、高校2年生を対象に、就業意識セミナー・企業との面談会・夏休み期間中に企業が受け入れて就業体験を行い、高校生は地域企業を知り、将来の進路選択の参考に、企業には人材採用の参考を目的に20年以上継続してきた。

しかし、令和2年度は新型コロナウイルスの感染拡大によりすべての事業は中止。昨年度は代替企画として授業をはじめ自宅などでも就職に活用できるようにYouTube動画「バーチャル会社訪問」を制作し配信した。今年度も従来の600人を超えるセミナーや面談会、120社の就業体験見通しが立たない中、高校、企業側からの要望やこれまでの課題を含めて▼生徒対象の「就業の心構えなどのセミナー」の分散実施▼大型面談会に替わり、(株)マイナビと連携しAIを活用した生徒と企業のマッチング▼生徒複数名での半日程度の企業訪問など新しい方式を採用した。併せてYouTube動画

「バーチャル会社訪問」を追加作成した。

今年度の事業には山形ハローワーク管内の東海大山形、山形城北、天童、上山明新館、霞城学園、山形明正、山形市立商業の7校から約370人の高校2年生と、山形市内の企業73社が参加した。

4回にわたって開かれた高校生を対象とした「就職意識醸成セミナー」では、(株)キャリアアクリエイトの浅野えみキャリアアカウンセラーが「私にとっていい仕事は『宝探し』と題してアドバイス。「知らないことを知る(情報)」、「知ったからやってみる(体験)」、「やってみて、できるようになる(経験)」を積み重ね、自分にとって楽しく、幸せに生きる仕事・職場を探すことが大切であり、インターンシップは貴重な体験になると呼び掛けた。

(株)マイナビの熊谷恭輔氏は、企業訪問の心構えについて「自分たちの身近な企業への訪問は、企業を通して地域や社会の『つながり』に触れる貴重な機会でもある。webサイトや会社案内パンフレットに目を通して、調べた情報を得た上で質問してみよう。企業側も親身になって答えてくれる」とレクチャーした。

生徒、企業のAIアンケートをもとに訪問先を決定。8月上旬に企業訪問が行われる。